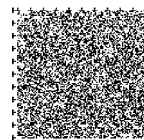


# 福岡県共助社会づくり 基金ニュース

令和3年度事業報告書

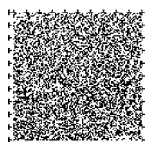
地域と共に、つながっていこう！

愛に溢れる未来を目指して



# CONTENTS

|                                                          |    |
|----------------------------------------------------------|----|
| 福岡県共助社会づくり基金について                                         | 2  |
| 寄附金の種類・手続き／寄附のメリット                                       | 3  |
| ふくおか地域貢献活動サポート事業とは／基金ホームページのご紹介                          | 4  |
| 寄附者のご紹介                                                  |    |
| イオン九州株式会社／大坪GSI株式会社                                      | 5  |
| 九州朝日放送株式会社／ご寄附いただいた皆様                                    | 6  |
| 令和3年度ふくおか地域貢献活動サポート事業のご紹介                                |    |
| ＜自由提案型＞                                                  |    |
| 1. 子どもの居場所支援・スペース虹事業<br>(スペース虹協議体)                       | 7  |
| 2. 地域単位での住民型認知症カフェの開設と運営者の掘起し<br>(久留米認知症カフェを広める会)        | 8  |
| 3. ジュニア和太鼓フェスティバル<br>(福岡県和太鼓友輪会)                         | 9  |
| 4. 学校に行きづらい子・社会に出づらい人の自立支援<br>(あさくら自立支援協議会)              | 10 |
| 5. 障害者雇用創出コンソーシアム<br>(テレワークとサテライトオフィスを利用した新しい障害者雇用を考える会) | 11 |
| 6. たがわ YOU・遊・マップ策定<br>(たがわ YOU・遊・マップ策定会議)                | 12 |
| 7. フードパントリーによる支え愛プロジェクト<br>(フードパントリーによる支え愛プロジェクト実行委員会)   | 13 |
| 8. 地域資源のやまももを育て、伝え、商品の魅力を高める協働事業<br>(那珂川市やまもも育成事業協議会)    | 14 |
| 9. TUKTUKでWAKUWAKU♪【吉塚リトルアジア食堂】<br>(吉塚市場リトルアジア)          | 15 |
| 10. 子どもたちの豊かな育ち応援事業<br>(子ども達の豊かな育ち応援協議会)                 | 16 |
| ＜テーマ型－災害支援枠＞                                             |    |
| 1. ～心が風邪をひく前に～ コミュニティカウンセラー養成講座<br>(ハート・ほっと・おおむた)        | 17 |
| 2. 災害支援活動者養成及び住民に対する災害時の対応啓発活動<br>(二都市災害支援「チャンネル」プロジェクト) | 18 |
| 3. 情報弱者にグッバイ！おたすけ手ぬぐいに込めた私たちの想い！<br>(防災バリアフリープロジェクト)     | 19 |
| 4. 防災を学び減災に繋げる事業。<br>(災防グ)                               | 20 |
| 5. 景観と文化伝承を活かした災害後の地域づくり<br>(平塚の郷守り会)                    | 21 |
| 6. 東峰村買い物支援・ふれあいカフェプロジェクト<br>(とうほう百貨店)                   | 22 |



# 福岡県共助社会づくり基金について

福岡県では、NPO・ボランティアや企業、行政などの多様な主体が地域の課題を解決するため、互いに支えあい、共に助け合う「共助社会」の実現を目指しています。

福岡県共助社会づくり基金は、この趣旨にご賛同いただいた県民や企業の皆さんの思いを「寄附」という形でお預かりし、NPO・ボランティアが多様な主体と協働して地域課題の解決に取り組む社会貢献活動へとつなぐ基金です。

特徴  
01

## 寄附者の思いを受けとめます

「広く地域課題の解決を図る取組を応援したい」という県民や企業の皆さんから「寄附」をお受けします。寄附者が応援したい活動分野やテーマを指定して寄附することもできます。

特徴  
02

## 課題解決に取り組むNPOへつなぎます

お預かりした寄附は、NPOが多様な主体と協働して地域課題の解決に取り組む社会貢献活動へ助成を行う「ふくおか地域貢献活動サポート事業」に活用します。NPOから協働事業の企画案を募集し、審査を経て助成対象となる協働事業を決定します。

特徴  
03

## 事業の成果をお知らせします

NPOにより実施された協働事業の成果は、成果発表会の開催や報告書「福岡県共助社会づくり基金ニュース」の発行などを通じて、広く県民の皆さんにお知らせします。

特徴  
04

## 寄附された方のお名前を公表します

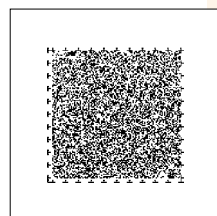
寄附者のお名前(企業名)は、広く県民の皆さんに公表します。  
詳しくは3ページをご覧ください。

特徴  
05

## 寄附者は税制上の優遇措置が受けられます

福岡県共助社会づくり基金へのご寄附は、税制上の優遇措置の対象となります。  
詳しくは3ページをご覧ください。

## 基金のしくみ



# 寄附金の種類／寄附の手続き

**普通寄附金** 共助社会づくりの活動を広く応援したい場合

**テーマ型寄附金\*** 特定のテーマを応援したい

※個別のテーマ指定ができるのは50万円から

## テーマ例:過去に実施したテーマはこちら

|             |                               |
|-------------|-------------------------------|
| 平成25年～平成28年 | 福岡県の豊かな自然や景観などの環境保全活動         |
| 平成28年       | 熊本地震の震災支援                     |
| 平成29年       | 熊本地震の震災支援、九州北部豪雨の被災地支援        |
| 平成30年       | 九州北部豪雨の災害支援                   |
| 平成31/令和元年   | 平成29年九州北部豪雨及び平成30年西日本豪雨の被災地支援 |
| 令和2年        | 平成29年九州北部豪雨の被災地支援             |
| 令和3年        | 豪雨災害の被災地支援                    |

テーマの内容については  
ご相談ください。

寄附の手続き

### 1. ご相談

まずは福岡県NPO・ボランティアセンターにご相談ください。

### 2. お申し込み

寄附金申込書をお送りします。ご記入後、郵便・ファックス・電子メールのいずれかでお申し込みください。

### 3. 払い込み 振込手数料はかかりません

福岡県から納付書を送付いたしますので、お近くの金融機関でお振込みください。

## 寄附をすることで、2つのメリットがあります。

### ■税制上の優遇装置を受けることができます

**企業の場合** 資本金の額にかかわらず、寄附金の全額を損金算入することができます。

#### 個人の場合

|       |                                                                                                                                                                                              |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 所得税   | [寄附金額の合計額－2,000円]×所得税の税率<br>※なお、控除の対象となる寄附金額は総所得金額等の40%が上限です。                                                                                                                                |
| 個人住民税 | ①基本控除<br>[寄附金額－2,000円]×10%<br>※なお、控除の対象となる寄附金額は総所得金額等の30%が上限です。<br>②特例控除<br>1.[寄附金額－2,000円]×[100%－10%(基本分)－所得税の税率]<br>※この特例分が住民税所得割額の2割を超えない場合<br>2.(住民税所得割額)×20%<br>※この特例分が住民税所得割額の2割を超える場合 |
| 相続税   | 相続または遺贈により取得した財産を申告期限内に一定の要件を満たし、寄附した場合、その寄附をした財産は、相続税の課税価格の計算に算入されません。                                                                                                                      |



ご確認ください

●税制上の優遇措置を受けるには、所得税の確定申告が必要です。

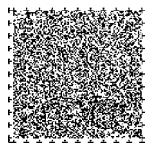
●具体的な控除の額は、各担当部署へお問い合わせください。

・所得税について……………最寄の税務署

・個人住民税について……お住まいの市区町村税務課

### ■お名前を公表させていただきます

ご寄附いただいた方のお名前を「福岡県共助社会づくり基金ニュース」や「福岡県共助社会づくり基金ホームページ」に掲載させていただきます。(匿名とすることも可能です)



# ふくおか地域貢献活動サポート事業とは

「福岡県共助社会づくり基金」を活用して、NPO・ボランティアが行政、地域コミュニティ、企業などの多様な主体と協働して、地域課題の解決に取り組む社会貢献活動を応援する助成事業です。県が協働事業の企画案を募集し、外部有識者による審査を経て、補助金の交付対象となる事業を決定します。

応募対象：NPO等（特定非営利活動法人・ボランティア団体、公益社団法人、公益財団法人、一般社団法人、一般財団法人）及び行政、地域コミュニティ、企業などを構成員に含む団体

## 自由提案型

**普通寄附金** を活用し、自由で先進的な発想や専門的なノウハウ等を活かした公益性の高い活動分野を限定しない事業

令和3年度：10件 詳細は7ページから16ページ

## テーマ型

**テーマ型寄附金** を活用した、寄附者の意向による一定のテーマに基づく協働事業

令和3年度：テーマ「豪雨災害の被災地支援活動」

6件 詳細は17ページから22ページ

## 事業スケジュール ※年度によって変わることがあります

| 4月    | 5月  | 6月     | 7月   | ～3月   | 3月   |
|-------|-----|--------|------|-------|------|
| 事業の募集 | 審査会 | 採択事業決定 | 事業開始 | 事業の実施 | 事業報告 |

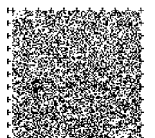
## 福岡県共助社会づくり基金ホームページのご紹介

このホームページでは、今までにご寄附をいただいた寄附者の皆様や、寄附金の活用実績、サポート事業募集情報などを掲載しています。共助社会づくり基金への寄附を検討されている方、NPO・ボランティア団体に取り組む協働事業を応援したい方、ぜひ一度「福岡県共助社会づくり基金ホームページ」をご覧ください。

<https://www.kifu.pref.fukuoka.lg.jp/>



是非  
ご覧ください



# イオン九州株式会社

## 【企業紹介】

イオン株式会社は2010年から、「お客さまを原点に地域社会に貢献する」という基本理念の実践のため、全国各地の地域行政と協働し、防災・福祉・環境保全の推進や150券種を超える「ご当地WAON」などを活用した商業・観光の振興など、さまざまな分野で双方が持つ資源を有効に活用するための協定を締結し、活動を展開しています。

イオンと福岡県は、2012年4月に包括連携協定を締結し、福岡県の活性化と県民サービスの向上に協働で取り組んでいます。その取組のひとつが「ふくおか共創WAONカード」です。これは、全国のイオンのお店や加盟店で使える電子マネーカードで、利用額の0.1%を「福岡県共助社会づくり基金」に寄附し、NPO・ボランティア団体と企業、行政などの多様な主体との協働による「共助社会づくり」に役立ててもらふものです。この仕組みを御理解いただいた上で、「ふくおか共創WAON」の利用者が増え、寄附の好循環が生まれるように、今後とも地域のくらしに根ざし、地域社会に貢献し続けることを目指していきます。



令和3年7月 イオン九州株式会社からの寄附金贈呈式

写真左から イオン九州株式会社 内田守執行役員福岡事業部長、服部誠太郎福岡県知事、イオン九州株式会社 柴田祐司代表取締役社長

## イオン九州株式会社九州エリア政策推進部長の貴島昇さんにお話を伺いました。

**Q** 今年度のふくおか地域貢献活動サポート事業について、ご感想をお聞かせください。

貴島さん

いずれの事業も「共助社会づくり」につながる取組になっていると思います。例えば、「フードパントリーによる支え愛プロジェクト実行委員会」さんの取組では、NPOや企業、地域住民の皆さんが連携し、子育て世帯などの支援が必要な家庭に食材や生活物資の配付を行っており、コロナ禍において必要な取組であると思います。当社も店頭でフードドライブ活動を実施していますが、このような取組が広がっていくことを願っています。



福岡県のご当地WAON「ふくおか共創WAONカード」



「Apple PAY」も対応  
※寄附の対象となります

# 大坪 GSI 株式会社

## 【企業紹介】

大坪GSI株式会社は、柳川市に本社を構え、「世の為」「人の為」「地域のため」にどのような貢献ができるか希求し、産業廃棄物処理・リサイクル事業、採石・砕石事業、運送業、土木解体業を営んでいます。

県内にある企業として、県の地域課題解決に協力したいと考えており、令和2年5月には、「福岡県新型コロナウイルス医療従事者応援金」として100万円を寄附しました。「福岡県共助社会づくり基金」の理念に共感し、今年度は、本基金へ寄附を行いました。



令和3年7月 大坪GSI株式会社からの寄附金贈呈式

写真左から 大坪GSI株式会社 大坪尚宏代表取締役、服部誠太郎福岡県知事、板橋聡福岡県議会議員

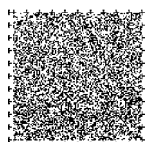
## 大坪GSI株式会社代表取締役の大坪尚宏さんにお話を伺いました。

**Q** 今年度のふくおか地域貢献活動サポート事業について、ご感想をお聞かせください。

大坪さん

自由提案型に活用いただいておりますが、地域課題の解決に向けた様々な活動が展開されており、嬉しく思います。例えば、「吉塚市場リトルアジア」さんの取組では、TUKTUKによる吉塚市場までの送迎や、地域に住む高齢者と外国人の交流機会の創出など、地域課題を認識し活動されている団体ならではの取組だと思います。

大坪GSI株式会社としても、皆様に寄り添い、皆様の困りごとを解決すべく、事業を続けてまいりたいと思っております。



# 九州朝日放送株式会社

## 【企業紹介】

九州朝日放送株式会社では、自分たちが暮らす足元から自然環境について考えていこうと創立45周年を記念して1997年から「KBC水と緑のキャンペーン」をスタートし、昨年で25回目を迎えました。KBCのテレビ、ラジオ、イベントなどを通じて環境保護の大切さを訴えるとともに、「KBC水と緑の基金」を募り、いただいた浄財を名木治療や被災地支援に活用してきました。

17回目からは、「福岡県共助社会づくり基金」に寄附し、NPO・ボランティア団体と企業、行政などの多様な主体との協働による福岡県の環境保全・保護活動や被災地支援に役立てて頂いています。

第25回となる今回のテーマは「明日への一歩」です。私たちのふるさとが“かけがえのない”ふるさとであり続けるために「自分1人の力で何ができるのだろうか」「何から始めたらいいのだろうか」一歩を踏み出そうとしているあなたの背中を押すようなヒントをみなさんと一緒に、前を向いて考えていければと思っています。



令和4年1月 九州朝日放送株式会社からの寄附金贈呈式

写真左から 九州朝日放送株式会社 和氣靖代表取締役社長、服部誠太郎福岡県知事

## 九州朝日放送株式会社総合編成局総合編成部長の川崎浩司さんにお話を伺いました。

**Q** 今年度のふくおか地域貢献活動サポート事業について、ご感想をお聞かせください。

**川崎さん** 災害支援人材養成講座や災害対応訓練の実施、災害後の地域づくりといった、被災地に寄り添った支援事業となっており、視聴者・聴取者の皆様からいただいた寄附金を有効に活用いただいていることを大変嬉しく思います。被災地の復旧・復興にはこれからも息の長い支援が必要ですので、九州朝日放送としてもサポートを継続していければと思います。



第25回KBC水と緑のキャンペーン

## ご寄附いただいた皆様

|                           |            |       |
|---------------------------|------------|-------|
| イオン九州株式会社 (令和3年4月)        | 4,911,915円 | 自由提案型 |
| 株式会社ダイエー (令和3年4月)         | 222,168円   | 自由提案型 |
| トヨタL&F福岡株式会社 (令和3年4月)     | 646,940円   | 自由提案型 |
| 大坪GSI株式会社 (令和3年4月)        | 1,000,000円 | 自由提案型 |
| 西部ガスホールディングス株式会社 (令和3年8月) | 200,000円   | 自由提案型 |
| 九州朝日放送株式会社 (令和3年1月)       | 4,656,267円 | 災害支援枠 |

ご支援いただき  
ありがとうございます。  
ございました。

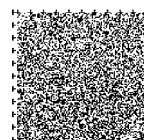
## 寄附金額合計

**11,637,290円**

※括弧内は寄附金納付年・月

**自由提案型** P7～P16の自由提案型に活用

**災害支援枠** P17～P22のテーマ型(災害支援枠)に活用



自由  
提案型

1

# 子どもの居場所支援・スペース虹事業



普段のスペース虹の風景



スタッフの救急救命研修



草取りお楽しみ会

協議体

## スペース虹協議体

所 在: 大野城市上大利2-15-34

〈構成団体と役割〉

- ◆ 特定非営利活動法人エンパワメント福岡 企画運営
- ◆ 大野城学習支援室・かぼちゃ 事業全般への助言、学習支援室の提供
- ◆ スペース虹 企画運営

〈問い合わせ先〉

- ◆ 特定非営利活動法人エンパワメント福岡
- 住 所 大野城市上大利2-15-34
- 電 話 070-5698-7416 F A X 092-519-6580
- メー ル empower@csf.ne.jp
- HP・SNS等 <http://empower-f.main.jp>

## 課題・背景・目的

子どもの貧困、不登校の増加が社会問題となっており、更に、昨年からのコロナ禍によって子どもたちの環境はより厳しくなっている。子どもたちが安心して食事し、夢を育む学習や体験ができるために、家庭や学校以外の第3の居場所が必要とされている。

## 主な取組内容

市内の古民家を活用し、不登校や生活環境が厳しい子ども・家族を対象に「スペース虹」を運営。毎週日曜日と水曜日には、子どもの居場所として食事や学習、体験活動のほか、今年度は新たに子どものことで悩む親などが語る場「保護者カフェ虹」を3回開催した。また、スタッフ研修・啓発の機会として、発達障がい等についての研修会や救急救命講習を実施した。

## 工夫した点

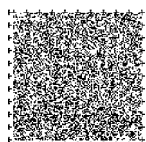
おおのじょうボランティアセンターや学生ボランティアと協働して、草取りお楽しみ会を開催。参加者の笑顔が印象的だった。コロナ禍による緊急事態措置期間等は、食事提供を中止し、午前中のみオープンとした。代わりにフードバンク等からの提供品を持ち帰り、または自宅に届けるフードパントリーを行った。

## 事業の成果・今後の展開

子どもの居場所は、78回延べ子ども50名、大人275人が参加（1月末現在）し、食事や学習、体験活動を行った。特に、中学生2名に対しては、受験に備えて継続的に学習支援を行うことができた。保護者カフェ虹は、コロナのため縮小開催となったが、6名の参加があり、家族の不安の緩和につながった。今後も、継続的に子どもの居場所づくり、保護者支援、地域交流を行う。

主な経費

スペース使用料、スタッフ旅費、文房具等の消耗品費





自由  
提案型

2

# 地域単位での住民型認知症カフェの開設と運営者の掘起し



9/23「一緒につくろう認知症カフェ」のセミナー写真

## 課題・背景・目的

認知症の不安を抱える人、その家族、一般市民や専門家が気軽に集い、認知症を正しく理解し学ぶ認知症カフェは、認知症の進行防止、早期発見・予防の面でなくてはならない居場所である。認知症になっても安全安心なまちづくりを進めていくため、他地域に先駆け、地域単位での住民型認知症カフェを増やしていく。

## 主な取組内容

昨年度の人財育成研修修了者に対し、住民型認知症カフェ開設に向けたフォローアップ活動を実施。また、認知症カフェを普及啓発し、新たな認知症カフェ運営希望者を募るため、令和3年9月、久留米市内において、認知症の基礎知識や認知症カフェの現状を学ぶ「一緒につくろう認知症カフェ」セミナーを開催し、運営者の募集を行った。

## 工夫した点

ボランティア団体、医療機関、介護事業者の協働で地域包括ケアの1つとして取組を推進。セミナーは、オンライン参加も可能とすることでより幅広い参加者を募り、認知症カフェの第一人者である東北福祉大学准教授の矢吹知之氏の講演に加え、他地域や久留米市における認知症カフェの事例紹介も行った。

## 事業の成果・今後の展開

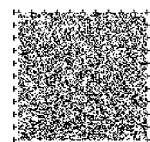
カフェ運営希望者16名のフォローアップ活動により、令和3年度は、3箇所の認知症カフェの開設につながった。また、セミナーには100名を超える参加があり、認知症の基礎知識を学び、認知症カフェの現状や運営について啓発を行うことができた。久留米市と連携してカフェ開設の人財育成を促進するほか、各地域での開設を推進する。

**主な経費** スタッフの活動人件費、講師謝金、会場使用料、事務費

〈問い合わせ先〉

◆久留米認知症カフェを広める会

住 所 久留米市中央町35-1  
電 話 0942-35-0212 F A X 0942-35-0212  
メー ル kenkou@117fureai.org  
HP・SNS等 <http://117fureai.org/>



セミナー後半の質疑応答



久留米認知症カフェを広める会の会合写真(コロナ禍でズーム参加もあり)

### 協議体 久留米認知症カフェを広める会

所 在:久留米市中央町35-1

〈構成団体と役割〉

- ◆一般社団法人久留米健康くらぶ  
事務局、企画・広報、認知症カフェ運営者への運営/ノウハウの提供
- ◆音成脳神経内科・内科クリニック  
医師会への渉外、企画、広報
- ◆株式会社スカイメディカル  
介護福祉事業者や薬剤師会への渉外、ケアマネ・薬剤師の派遣、企画、広報

自由  
提案型

3

# ジュニア和太鼓フェスティバル



当日の舞台演奏①



当日の舞台演奏②



コロナウイルス感染拡大防止対策実施の様子

協議体

## 福岡県和太鼓友輪会

所 在: 飯塚市榑114-1

〈構成団体と役割〉

◆福岡県和太鼓友輪会 全体企画・運営、広報

◆特定非営利活動法人川筋ジャパンマーベラス  
企画・運営協力、助言◆川筋太鼓飯塚響学館、川筋太鼓博多響学館、壱鼓館、  
下関平家太鼓保存会勝山会、創価福岡先駆太鼓団、  
つくし太鼓愛好会、川筋若竹会、九州和太鼓田川大藪太鼓  
春日太鼓保存会、平尾太鼓 企画・運営、広報

〈問い合わせ先〉

◆福岡県和太鼓友輪会

住 所 福岡市東区松崎1丁目10-5

電 話 092-692-9115 F A X 092-692-9125

メー ル studioikkikan@yahoo.co.jp

## 課題・背景・目的

コロナ禍により、文化ホールの舞台利用が減少し、地域において文化に触れる機会が激減している。また、感染拡大防止の為に、練習場が閉鎖される等、和太鼓に取り組む環境への影響が出ており、発表の機会も減少している。このため、子ども達の目標意識の低下、ストレスの蓄積が生じており、伝統文化の保存継承の危機を迎えている。

## 主な取組内容

嘉麻市なつき文化ホールにおいて、和太鼓に取り組む県内の子どもたちの発表の場として、「ジュニア和太鼓フェスティバル」を開催。事前にフェスティバルの開催方法、当日の感染防止対策等について団体間で入念な協議・準備を行ったほか、各団体においてフェスティバルでの発表に向け、感染防止に配慮したかたちで練習を行った。

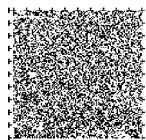
## 工夫した点

コロナウイルス感染防止のため、イベント開催に向け開催シミュレーションの実施等、入念な準備をしたことで、緊急事態宣言により日程や手法の変更を余儀なくされたものの、10月に保護者等関係者のみが観覧するかたちで開催することができた。

## 事業の成果・今後の展開

発表に向けて練習に励んだ4団体36名の子どもたちが、日ごろの成果を披露した。心身ともに閉鎖的な状況が続いていた中で、体を十分に使い発散できたことは、子ども達の心の解放につながった。関係者からも、子ども達の成果披露の場の大切さを改めて実感したとの声が上がった。今後は、今回の開催ノウハウを活かし、ジュニア和太鼓フェスティバルの定期開催につなげていきたい。

主な経費 使用料、運搬費、謝金



自由  
提案型

4

# 学校に行きづらい子・ 社会に出づらい人の自立支援



子どもたちが提案した献立を、子どもたち全員で調理し、和やかに会食を楽しむ。

## 課題・背景・目的

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための休校措置等の影響もあり、朝倉市・郡や東峰村においても不登校生が増加している。フリースクールにおいて学習支援、体験学習・活動などを行うことで、子どもたちの学びの保障につなげる。また、遠方からの利用希望者も増えており、他地域におけるニーズにも対応していく必要がある。

## 主な取組内容

朝倉市杷木、甘木、東峰村の3か所において、平日毎日通えるフリースクールを開設し、子どもの居場所づくりや学習支援、体験学習・活動を実施し、現在25名が在籍している。また、スタッフによる個別の電話相談も常時実施している。そのほか、地域の人たちを含む多くの人たちに、子どもにどのように寄り添うかを考え、不登校を正しく理解してもらうための学習会を開催した。

## 工夫した点

調理実習やあさくら子ども祭りへの参加など、子どもたち自身が主体となって計画・実施する体験活動を多く取り入れ、自己肯定感を高め、自立できる力を付けていく支援を行った。また、フリースクールを卒業した先輩の話聞く機会を設け、子どもたちが先輩の姿に安心と勇気をもらうとともに自分の進路について考えるきっかけとなった。

## 事業の成果・今後の展開

様々な学習・体験を通じて、子どもたちが自らの進路を考え、自立する力を育むことができた。子どもが在籍する学校との連絡会の継続実施により、双方の理解が進み、子どもの居場所が学校に徐々にでき、子どもが学校を信頼し、通えるようになってきている。今後も、各方面に働きかけを行いながら、各市町村にあった方法で子どもの居場所を一つでも多く増やしていく。

**主な経費** 講師謝金、人件費



あさくら子ども祭りには、手作りの「的当てゲーム」のワークショップで参加。今年も盛況であった。



週1回、近くの公園でテニスや散歩を楽しむ。青空の下、解放されるひとときである。

### 協議体 あさくら自立支援協議会

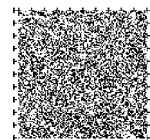
所 在：朝倉市杷木久喜宮1508-2

〈構成団体と役割〉

- ◆特定非営利活動法人 フリースペース よつば  
相談・学習支援、体験活動、研修会の実施
- ◆久喜宮地域コミュニティ協議会  
広報・啓発活動、施設提供
- ◆東峰村教育委員会 広報・啓発活動、施設・設備の提供

〈問い合わせ先〉

◆特定非営利活動法人 フリースペース よつば  
電 話 0946-62-1085 F A X 0946-62-1085  
メー ル tekohira@yahoo.co.jp





# 障害者雇用創出コンソーシアム



車いす陸上のレース用車いす



3Dプリンタ製作に向けた打ち合わせ



3Dプリンタセミナー

## 協議体

### テレワークとサテライトオフィスを利用した新しい障害者雇用を考える会

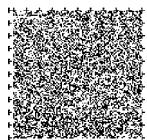
所 在: 北九州市八幡西区割子川1-2-27

〈構成団体と役割〉

- ◆ 特定非営利活動法人ふくおか視覚障害者雇用開発推進センター  
視覚障がい児童の募集、障がい者雇用実態調査、全体の運営
- ◆ 特定非営利活動法人里山を考える会  
ワークショップ開催、活動のプロモーション、健常者児童らの募集、地元企業との窓口
- ◆ NPO法人みんなの職場研究会  
事業終了後の運営方法の検討

〈問い合わせ先〉

- ◆ 特定非営利活動法人ふくおか視覚障害者雇用開発推進センター  
住 所 北九州市八幡西区割子川1-2-27 電話 080-4637-0644  
メール akamatsu@career-i.jp HP・SNS等 <https://cec-pd.jp/>



## 課題・背景・目的

通勤やオフィス環境などの課題から、障がいのある人にとって就職は、厳しい状況にある。また、既存の分野の仕事に障がい者が雇用される機会も少ない。学校教育の新機軸として期待されているSTEAM教育の一翼を担う人材として、3D造形技能を有する障がい者を育成し、就労の拡大を図る。

## 主な取組内容

3Dプリンティングの勉強会を開催し、3D造形技能を有するスペシャリスト「匠」を育成。2月には、勉強会で技術を習得した者が講師となって、3Dプリンタセミナーを開催し、障がい者が次の障がい者へと技術を継承した。あわせて、3Dプリンタ製作の受注先候補の調査を実施した。

## 工夫した点

受注先候補として、車いす陸上選手のグローブ提供の実態を調査した結果、個人ごとに微細な調整が必要なグローブは、3Dプリンタでの受注製作の可能性があることがわかった。このほかにも、体が不自由な人の生活動作を補助する自助具など、様々な製作に取り組み、受注先の確保を図っている。

## 事業の成果・今後の展開

2月に開催した3Dプリンタセミナーでは、7名の受講生と7名の見学者の参加があった。参加した方からは、大変楽しかったという声が聞かれ、アンケートにおいても、3Dプリンタ造形に大変興味があるといった回答が多く、今後の参加意欲が感じられた。今後も、3D造形技能を活用し、新たな職域と働き方による障がい者雇用の創出を目指す。

## 主な経費

講師謝金、  
介助ボランティアの人件費、  
ホームページ作成費、旅費、  
3Dプリンタ消耗品費



自由  
提案型

6

## たがわ YOU・遊・マップ策定



YOU・遊・マップ・たがわーど



編集会議風景



取材風景

## 協議体 たがわYOU・遊・マップ策定会議

所 在: 田川市春日町2-4 (秋吉整形外科内)

〈構成団体と役割〉

- ◆ 福岡県立大学と共に歩む会 全体企画、運営
- ◆ (株)クリエイティブジャパン 制作、Webページ制作助言
- ◆ 福岡県立大学秋興祭実行委員会 取材、編集作業

## 課題・背景・目的

「今でも良い田川」を「もっと良い田川」にするため、田川の素晴らしい場所、イベント、お店などの情報を発信することで、地域の素晴らしさを発見し、人々のプライドの高揚につなげて行く必要がある。また、観光客や、技能実習生などの在住外国人も増えており、外国人に対する情報提供も求められている。

## 主な取組内容

田川の名所・旧跡や店舗の情報を集めた生活情報誌「YOU・遊・マップ・たがわーど」第6版を策定し、地元大学である福岡県立大学の学生や、市内店舗、駅等に配布した。また、リアルタイムでの店舗情報を検索できるように構築したWebページ (<http://yuyumap.sa-ba.jp/>) の情報更新も実施した。

## 工夫した点

記事の作成に当たっては、質の良い店舗、名所・旧跡を策定会議メンバーが主体性をもって現地調査、評価し、掲載の可否を決めた。記事と広告を明確に分け、記事については掲載料をとらないことで、記事の質を高めた。

## 事業の成果・今後の展開

「YOU・遊・マップ・たがわーど」第6版を策定し、福岡県立大学の新生に毎年配布を行うなど、県大生や教職員の皆様等に5年間で計3000部配布する。また、Webページ版については、街の最新情報をチェックし常時更新を行っていく。田川地域の活性化に寄与できるよう、地域の素晴らしさを伝え、引き継いでいく。

主な経費 印刷製本費、取材人件費、旅費

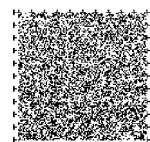
〈問い合わせ先〉

◆ たがわYOU・遊・マップ策定会議

住 所 田川市番田町7-16

電 話 0947-23-0300 F A X 0947-23-0300

メー ル k.ueki1@crocus.ocn.ne.jp

HP・SNS等 <http://mirai.sa-ba.jp/>



# フードパントリーによる 支え愛プロジェクト



集まった食品を各団体毎に仕分け



ボランティアから地域の方々へ配布している様子



フードパントリー開催の様子

## 協議体

### フードパントリーによる 支え愛プロジェクト実行委員会

所 在: 大野城市白木原1-14-22

〈構成団体と役割〉

- ◆ 認定NPO法人チャイルドケアセンター 企画・運営、協力企業の開拓
- ◆ エフコープ生活協同組合 食品等の管理、分配の調整、組合員への周知
- ◆ 筑紫女学園大学大西研究室 ネットワーク強化、外部発信、アンケートの実施
- ◆ 西松建設(株)九州支社 食品保管場所の提供、食品の仕分け・配布
- ◆ ふくおか筑紫フードバンク 協力企業の開拓、子ども食堂運営団体との調整、食品等の管理

〈問い合わせ先〉

- ◆ 認定NPO法人チャイルドケアセンター
- 住 所 大野城市白木原1-14-22
- 電 話 092-502-882 F A X 092-502-885
- メー ル kodomo@npo-ccc.net

## 課題・背景・目的

筑紫地区において、コロナ禍で開催が困難な子ども食堂に代わって、弁当や食材を配布するフードパントリーの取組みを行っているが、食材のみならず、経済状況の悪化に伴い生活用品等の需要も高まっている。しかし、子ども食堂への寄付食品等の物流などの課題から、物資の種類を増やすことが困難な状況となっている。

## 主な取組内容

毎月1回、エフコープ太宰府支所にて、子ども食堂を運営する22団体に物品を分配し、各団体がそれぞれの地域において、子育て世帯や高齢者などに配布を行うフードパントリーを実施。あわせて、食品・物品の寄贈や物流・管理等に協力いただける企業の開拓を実施した。

## 工夫した点

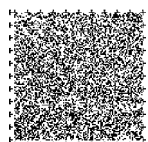
子育て世帯を対象としたアンケートを実施することで、現在の困りごとや求められている物品を把握し、企業等と連携して支援物品の拡充を行った。また、各地域で子ども食堂運営団体が行う配布の際に、学校の先生や民生委員など地域住民の協力が得られたことで、今まで子ども食堂には来ていなかった人々にも支援を届けることができた。

## 事業の成果・今後の展開

月1回の子ども食堂運営団体を通じたフードパントリー活動により、子育て世帯など、支援が必要な家庭に物資を届けることができた。また、協力企業の開拓活動により、10件の協力企業の増加につながり、事業ネットワークがより強化されるとともに、支援物資の種類及び量を拡充することができた。今後も、筑紫地区5市を結ぶ情報と物のネットワークを活用し、継続してフードバンク事業に取り組む。

## 主な経費

広報物作成費、  
スタッフ人件費、  
車両使用料



自由  
提案型

8

# 地域資源のやまももを育て、伝え、商品の魅力を高める協働事業



ボランティアの皆さんとやまもも収穫作業



福岡県庁での商品販売イベント



やまもも苗木の育成作業

## 協議体 那珂川市やまもも育成事業協議会

所 在: 那珂川市成竹885-1

〈構成団体と役割〉

- ◆やまももの森プロジェクト 事業全体統括、市民ボランティア窓口
- ◆(株)南畑ぼうぶら会議 事業全般の伴走支援、商品販売
- ◆福岡女子商業高等学校 やまもも育成・商品開発・販売協力
- ◆(株)ホーホウ 全体調整、情報発信・広報
- ◆那珂川市 広報支援 ◆那珂川市商工会 販路開拓支援

## 課題・背景・目的

那珂川市の地域資源として登録され山間部で広く栽培されてきた「やまもも」だが、育成農家が激減しており市民の間でも「やまもも」のおいしさを知らない人も多くなっている。荒廃農地の再生と地域活性化を図るため、市民と協働してやまももの森を育てるとともに「やまもも」を使った「那珂川市の特産物」の商品開発に取り組む。

## 主な取組内容

既存のやまもも栽培地に加え、耕作放棄地を借りて若いやまもも苗木の植樹・草刈・育成に取り組んだ。やまもも収穫作業では、那珂川市内外から多くのボランティアに参加して頂いた。「やまももの森プロジェクト」の取組を知ってもらうために、那珂川市の広報誌PRや福岡県庁での商品販売イベントへの出展なども行った。

## 工夫した点

福岡女子商業高校と協働することで、企画、商品開発、デザイン等に若者の感覚を取り入れるとともに、高校生にとっても、プロジェクトへの参加がビジネス感覚を身に着ける実践の場となった。新規に栽培を開始したやまももの樹は、将来の観光農園化を見据えて、低木の鉢植えでの栽培に挑戦した。

## 事業の成果・今後の展開

やまももの育成・収穫には延べ280名のボランティアが参加し、地域資源としての認知度を向上させることができた。加工品として、「やまももジャム」、「ソフトクリーム」などを新規開発し、福岡県庁での商品販売イベント等でPRを行った。今後も那珂川市民の多くから支持されるブランド商品として定着するよう、継続的に事業の拡大を図っていく。

**主な経費** 商品開発等人件費、  
広告宣伝費、  
講師謝金

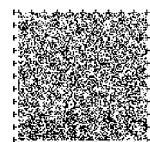
〈問い合わせ先〉

◆やまももの森プロジェクト

住 所 那珂川市片縄北4丁目5-5

電 話 090-1340-8320 F A X 092-954-2406

メール miyothanhanahana@outlook.jp





# TUKTUK で WAKUWAKU ♪ 【吉塚リトルアジア食堂】



高齢者TUKTUK乗車



外国人食堂



TUKTUK

## 協議体

### 吉塚市場リトルアジア

所 在:福岡市博多区吉塚1-14-15  
(構成団体と役割)

- ◆西林寺キャンドルナイトライブ実行委員会  
地域・外国人日本語学校との連携調整、脳トレ・体操教室実施
- ◆トリゼンフーズ(株)  
商店街内コミュニティプラザの管理、イベント広告作成
- ◆(株)シーアンドイー 開催日活動サポート、広報
- ◆Carmity.Ltd TUKTUKによる地域高齢者送迎
- ◆吉塚商店街連合組合 ランチメニュー考案・提供、ボランティア登録管理、周辺自治会等との連携

〈問い合わせ先〉

◆吉塚市場リトルアジア  
住 所 福岡市博多区吉塚1丁目14-15  
電 話 092-409-3209  
HP・SNS等 <https://yoshiduka-yla.com/>

## 課題・背景・目的

吉塚商店街では、最盛期1950年代には120店舗ほどであったが現在では約3分の1にまで減少し、かつての賑わいが失われている。商店街を主に利用する地域の高齢者は、身体的不自由などから活動が減少している。また、外国人在住者が多い地区であるが、外国人と地域の日本人との交流が少ないことから、共助の新たな社会体制の構築を目指す。

## 主な取組内容

吉塚商店街内において、月4回、地域の高齢者や外国人を対象としたランチ会「アジア食堂」を開催。参加者は自己負担300円で商店街内の総菜、アジア各国飲食店のお弁当を食べることができる。希望者にはテイクアウト対応。コロナ禍、交流会への参加に躊躇する傾向はあったが、地域の高齢者と児童、外国人の交流を図った。また、食堂開催日には、高齢者のTUKTUK無料送迎も実施した。

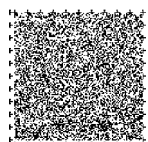
## 工夫した点

高齢者に外出することの楽しさを実感してもらうよう、移動手段に東南アジアの庶民的三輪自動車(TUKTUK)を活用した。送迎コースの策定に当たっては、試乗会や事前アンケートを実施。協働団体それぞれが持つつながりを通じて、地域自治会や日本語学校、医療・福祉関係者の協力を得て実施することができた。

## 事業の成果・今後の展開

高齢者買い物支援、アジア食堂利用者は、1月までに延べ400名を超える参加者があり、登録者数は35名。毎週利用の方もおられ、高齢者の安否確認にも繋がり、「便利」「楽しい」という声が聞かれた。また、留学生の方から、ボランティアをしたいという声が多くあったので、ゆくゆくは日本語学校と連携し、受け入れ態勢を整えていきたい。今後も、地域住民と外国人の交流を図りながら、双方の課題の解決を目指していく。

主な経費 スタッフ人件費、TUKTUK運行費





自由  
提案型

10

# 子どもたちの豊かな育ち応援事業



小児科医佐藤和夫氏による講演会の様子



メディア啓発スタッフ・サポーター養成講座の様子



乳幼児健診での啓発の様子

## 課題・背景・目的

コロナ禍で外遊びが減少して乳幼児期からのスマホ・タブレット等デジタルデバイスへの接触が増える中、視力、体力、コミュニケーション能力、自己肯定感、学力の低下等子どもの成長過程で様々な課題が指摘されている。とりわけこれまでの視力検査では発見されなかった軸性近視の増加と対策が喫緊の課題となっている。

## 主な取組内容

メディアに依存せず健康的に利活用できるよう、産婦人科と連携したプレパママ講座の実施、乳幼児健診等の機会をとらえた啓発、小中学校の児童生徒及びその保護者への啓発など、発達段階に応じた啓発活動を行うとともに、スタッフ等も養成し、啓発スタッフ・サポーターや一般市民を対象とした講演会を開催した。

## 工夫した点

産婦人科や古賀市（子育て世代包括支援センター、学校教育課）との協働により、胎児期から学童期までそれぞれの発達段階での切れ目のない啓発の機会を得ることができた。また啓発スタッフ・サポーターや一般市民を対象とした講演会を、多くの人が参加できるよう、会場とオンラインのハイブリッド型で開催し、115名の参加を得た。

## 事業の成果・今後の展開

講演会では、参加者が熱心に話を聞く様子が見られ、メディアへの付き合い方に関して多数の質問があがる等、関心の高まりが感じられた。新たに子育て中の若い啓発スタッフ・サポーターも養成できた。今後も、子ども達の豊かな育ちを応援する切れ目のない啓発に向け、市や産婦人科と協働し長期的な取組みとして継続していく。

### 協議体 子どもたちの豊かな育ち応援協議会

所 在：福津市中央1-16-6-506

〈構成団体と役割〉

◆NPO法人ふくつ子どもステーションすてっぷ  
啓発リーフレット・動画作成、スタッフの養成、啓発活動実施

◆NPO法人古賀新宮子ども劇場 講演会、養成講座の開催

◆古賀市子育て世代包括支援センターKuRukuRu 子育て支援課  
啓発活動への協力

◆古賀市学校教育課 啓発活動への協力 ◆医療法人愛和会産科・婦人科愛和病院 啓発活動への協力

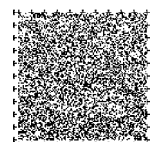
主な経費 啓発リーフレット・広報物制作費、  
講師謝金

〈問い合わせ先〉

◆子どもたちの豊かな育ち応援協議会

電話 090-5080-3581

メール knet\_niji@yahoo.co.jp





# ～心が風邪をひく前に～ コミュニティカウンセラー養成講座



受講者同士も励ましあい支えあって、20人全員が  
コミュニティカウンセラー資格を取得しました



講座は座学ではありません。緊張しながら表情の練習



初対面の挨拶一つで相手の心のバリアードを低くできる事を体験

**協議体**

**ハート・ほっと・おおむた**

所 在:大牟田市築町3-14まつくビル2階  
(構成団体と役割)

- ◆NPO法人つなぎ te おおむた  
事業の企画・運営、広報
- ◆有限会社うえだ  
広報、施設提供、当日運営支援、傾聴カフェの設営
- ◆FBOフードバンク大牟田  
広報、当日運営支援、傾聴カフェへの飲食提供

〈問い合わせ先〉

◆NPO法人つなぎ te おおむた  
住 所 大牟田市築町3-14 まつくビル2階  
電 話 090-7580-9044  
メー ル tunagite2017@yahoo.co.jp  
HP・SNS等 <https://www.facebook.com/tunagiteoomuta/>

**課題・背景・目的**

令和2年7月豪雨による被害を受けた大牟田市では、現在も被災によるストレスを抱えている人がいる。コロナ禍で交流の場も閉鎖され、心の底に潜んだ不安を語る事ができずにいる被災者は多い。自分自身と周囲の人たちの心の安全を守り、災害やつらい出来事による心の被災を最小限に留めることができる人が求められる。

**主な取組内容**

訓練された身近な相談相手である「コミュニティカウンセラー」を養成するための講座を実施。計4回の講座を受講し、コミュニティカウンセラーの資格を取得した参加者による、傾聴カフェを開催。被災者が集まる緩やかな語らいの場を設け、気持ちを吐露してもらった。

**工夫した点**

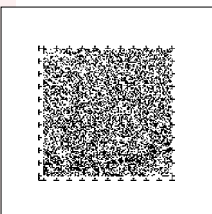
講座について可能な部分はオンラインで実施し、対面講習についても同内容を2日間行うことで、参加者が都合に合わせて受講できる体制をとった。資格取得後の傾聴カフェの開催までを事業に組み入れることで、最初の一步を仲間同士でフォローできる体制とし、今後の活動を積極的に行えるようにした。

**事業の成果・今後の展開**

20名がコミュニティカウンセラーの資格を取得。「日常の業務にも役立っている」との声が寄せられている。傾聴カフェには延べ40名参加があり、被災者の気持ちに寄り添い話を聞くことで、参加者は笑顔で帰路につかれた。今後は、地域で再開され始めたサロン等で傾聴活動を継続して実施するとともに、新たな資格取得者を増やしていく。

**主な経費**

委託費、人件費、会場使用料など



テーマ型  
(災害)

2

# 災害支援活動者養成及び住民に対する 災害時の対応啓発活動



令和3年9月15日久留米研修①



令和3年9月15日久留米研修②



令和3年10月16日大牟田研修

## 課題・背景・目的

令和2年7月豪雨災害において大牟田市、久留米市では広範囲で浸水被害が発生した。これまで床下浸水への対応は県外の支援者に頼っていたが、コロナ禍における災害復旧活動において、外部からの支援者の受入れが困難となった。今後は、地域住民が専門性を高め、自ら復旧活動に取り組み、被害を軽減していくことが求められる。

## 主な取組内容

住宅模型を使用し、床下浸水時における対応の必要性の判断基準や床下浸水に対応するための手順を解説する「住民向け床下浸水対策講座」を実施した。また、自身で床下浸水の対応ができない高齢者や障がい者等を支援することができるようにするため、市民から参加者を募り、「災害支援人材育成講座」を実施した。

## 工夫した点

初心者でも復旧活動をスムーズに行えるようにするため、住宅模型を活用し、住宅の基本構造を理解するところからはじめた。また、実際に作業の際に使用する送風機やポンプ等を講座で使用するなど、実践的な講座を実施した。オンラインツールを活用することで、コロナ禍での講座実施を可能とした。

## 事業の成果・今後の展開

計2回の講座を実施し、延べ80人の参加があった。今回養成した支援者を中心として、それぞれの市内の支援者で災害支援活動ができるよう、人材育成を継続して実施する。今後はコロナ禍において計画したが実施できなかった住民向け講座をできるだけ多くの地域で実施し、住民の方々の防災意識や床下浸水に対する対応力を高めていく。

### 協議体 二都市災害支援「チャンネル」プロジェクト

所 在:北九州市小倉南区上石田4-12-3

〈構成団体と役割〉

- ◆一般社団法人九州防災パートナーズ  
関係機関の調整、講座講師
- ◆NPO法人つなぎte おおむた  
大牟田市における関係機関の調整
- ◆くるめ災害支援ネット(ハッシュ#)  
久留米市における関係機関の調整、講座講師

◆大牟田市  
広報

◆久留米市  
広報

◆久留米市社会福祉協議会  
資機材貸出、講師派遣、広報

主な経費 講師謝金、人件費、資料作成費など

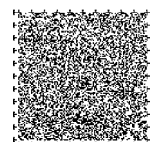
〈問い合わせ先〉

◆一般社団法人九州防災パートナーズ

住 所 北九州市小倉南区上石田4-12-3

電 話 093-962-5750 F A X 093-981-7448

メール angel2012black@gmail.com



テーマ型  
(災害)

3

# 情報弱者にグッバイ！ おたすけ手ぬぐいに入れた私たちの想い！



手ぬぐい構成・イラスト打ち合わせ



大牟田民生委員・児童委員会協議会へ周知



おたすけ手ぬぐい

## 協議体 防災バリアフリープロジェクト

所 在:大牟田市新栄町16番地11-1

〈構成団体と役割〉

- ◆特定非営利活動法人 大牟田市障害者協議会  
企画、広報
- ◆大牟田市ボランティア連絡協議会  
企画、広報

## 課題・背景・目的

様々な障がい特性が理解されておらず、令和2年7月豪雨時に困難に直面した人がいた。要配慮者がどのような思いを抱えているのか、地域や行政に伝える場は少ない。要配慮者の思いを多くの人に発信し、理解を広げ、有事の際に必要な支援ができるようになることが望まれる。また、要配慮者が自ら支援を伝える手段も考える必要がある。

## 主な取組内容

当事者の声を基に、知ってほしい配慮をイラストと文字で示した「おたすけ手ぬぐい」を作成。障がいごとに必要な支援は異なるため、目の障がい、耳の障がい、からだの障がい、知的障がい、発達障がい、精神的な不調の6種類の手ぬぐいを作成した。その「おたすけ手ぬぐい」を地域の会議等で紹介し、当事者と支援者、行政関係者に広めた。

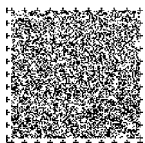
## 工夫した点

当事者の意見を聞くためにアンケートを実施。アンケートを基に内容を協議し、文字や指差しで使えるコミュニケーションボード、イラストを記載するなど、使いやすさを工夫した。また、外見からでは配慮が必要だとわからない人も多いため、要配慮者であることがわかるピブスを購入。手ぬぐいと併用することで災害時の受援効果を考えた。

## 事業の成果・今後の展開

「おたすけ手ぬぐい」を作成し、当事者や行政関係機関に配布した。地域や支援者にも周知したことで、日常においても、必要な配慮を自ら伝えるきっかけづくりができた。それぞれの障がい特性を知ってもらい、要配慮者が地域でより住みやすく、安心感を得るための手助けとなるように、今後も引き続き、手ぬぐいを広めていく。

主な経費 委託費、人件費、消耗品費など



〈問い合わせ先〉

◆特定非営利活動法人 大牟田市障害者協議会  
電話 0944-57-7161 FAX 0944-57-7163  
メール hotkan@hotkan.jp



# 防災を学び減災に繋げる事業。



床下浸水対応訓練

## 課題・背景・目的

大規模な被害をもたらした災害から4年を迎え、時間の経過と共に災害への意識が薄れている。災害後の対応は経験から学ぶことができたが、防災についての知識は不足している。毎年発生する災害に対する不安、被災地に住む不安を解消するため、地域住民の意識や知識の向上を図り、災害時に命を守り皆が協力し合える地域を目指す。

## 主な取組内容

令和3年4月に開設された「久喜宮地域防災拠点施設」を活用し、講師から話を聞き、防災について考える「防災講話」や、土嚢作りや床下浸水への対策等を実際に体験して学ぶ「防災・災害対応訓練」を行った。また、市内の関係機関が集まる「災害対応連絡会議」を定期的実施し、有事の際の迅速な対応に繋げる関係づくりを行った。

## 工夫した点

防災拠点施設での有事を想定した動きを訓練しておくことで、新しい施設のスムーズな活用ができるようになり、防災拠点のモデルとなるための実績を積み上げていくことができた。また、地域住民以外にも、大学生等の他地域に住んでいる人達にも事業に参加してもらうことで、有事の際に支援をもらえるような関係性を構築した。

## 事業の成果・今後の展開

「防災講話」及び「防災・災害対応訓練」を5回実施し、延べ170人の参加があった。今回の事業をきっかけに地域の定例行事となるよう、継続して実施する。また、「災害対応連絡会議」は6回行い、より強い関係性の構築ができた。今後は、朝倉が防災減災モデル地域となり、活動を福岡県全域に広げていく。



炊き出し訓練



ファシリテーション講座

### 協議体 災防グ

所 在:朝倉市杷木池田687-3

〈構成団体と役割〉

- ◆一般社団法人 Camp 企画・運営、広報
- ◆久喜宮地域コミュニティ協議会 活動場所の提供、広報

主な経費 消耗品費、設備使用料、人件費など

〈問い合わせ先〉

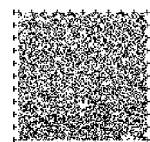
◆一般社団法人 Camp

住 所 朝倉市杷木池田687-3

電 話 090-3535-3520 F A X 0946-62-0954

メー ル tsunagi@camp2020.net

HP・SNS等 fb.me/camp2020.net/



テーマ型  
(災害)

5

# 景観と文化伝承を活かした災害後の地域づくり



秋晴れの見晴台にて行われたネイチャーゲーム



復興紅葉会の一コマ。地区内外から老若男女が集い、にぎわいました



絵本構想につながったワークショップの様子

協議体

## 平榎の郷守り会

所 在:朝倉市杷木志波

〈構成団体と役割〉

## ◆あさ・くる

全体運営、絵本ワークショップ主担当、広報、関係機関との調整

## ◆平榎復興委員会

見晴台整備作業・復興紅葉会の主担当、広報、施設提供

## ◆九州大学 ネイチャーゲーム主担当、企画アドバイス

〈問い合わせ先〉

## ◆平榎の郷守り会

住 所 朝倉市杷木志波3304-1

電 話 090-5477-0322 F A X 092-325-0890

メール asakuru2017@yahoo.co.jp

HP・SNS等 <https://www.facebook.com/hiraenoki>

## 課題・背景・目的

平成29年の九州北部豪雨後、世帯数が半減し、残った住民の高齢化率が高い平榎地区において、集落機能の維持は大きな課題である。住民が望んでいる、「景観と地域文化を活かした復興へのプロセス」を大学や市民団体のネットワークで支え、地域内外の人々の交流の機会を創出することで、災害後の地域づくりに寄与する。

## 主な取組内容

櫛山見晴台の整備を行い、ネイチャーゲームを実施することで、子どもの学びと地域住民との交流の機会を創出した。また、地域住民や他出者が集まる場として、復興紅葉会を開催し、平榎地区に訪れるきっかけづくりを行った。災害の記憶を忘れないようにするため、被災者にインタビューを行い、絵本という形にして残した。

## 工夫した点

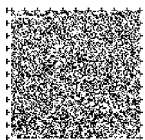
離村した人々は、思いはあっても戻ることが厳しい現実の中、実際にそこに住んでいなくてもその地域に「愛着」を持てる人をどれだけ増やしていくかという視点で事業を実施し、多様な人が関わる機会を創出した。特に、平榎地区には子どもは居住しておらず、子どもとの交流機会を増やすため、子どもが参加しやすい企画とした。

## 事業の成果・今後の展開

計3回のネイチャーゲームを実施し、延べ90人の参加があった。また、復興紅葉会には、100人の参加があった。今回の事業をきっかけに、参加者は平榎地区との新たな繋がりができた。今後も関係が続くよう活動を継続していく。絵本は500冊作成し、小学校へ寄贈したほか、原鶴温泉などで販売を行った。今後も販売先を開拓し記憶の伝承を行う。

主な経費

人件費、謝金、消耗費、委託費など



テーマ型  
(災害)

6

# 東峰村買い物支援・ふれあいカフェプロジェクト



陶器ギャラリーの一部をお借りしてよりあい喫茶「わ」を開店



「食」を通じた交流から日頃の食事について情報交換



エフコープ生活協同組合の指導を受け、高齢者も調理しやすい食品の試食会を実施

## 課題・背景・目的

豪雨災害の影響で個人経営の商店が閉店し、東峰村で日常的な買い物ができる場所が不足していることに加え、公共交通が不便であるため、村内の高齢者は気軽に買い物ができない状態となっている。また、災害後に仮設住宅等にて行われていた炊き出しやイベントがなくなったことで、コミュニケーションの場が不足している。

## 主な取組内容

昨年度から引き続き、買い物支援センターを設置したつみの里にて、村内店舗で仕入れ困難な商品をエフコープから仕入れ、買い物ができる体制を整えた。また、新たに「よりあい喫茶「わ」」を開催し、エフコープ商品の試食会や、手洗い講座、レクリエーションなどを行い、買い物ついでに気軽に集まることのできる場を作った。

## 工夫した点

「よりあい喫茶「わ」」では介護や看護等の専門知識を有する方々を交えて、血圧測定やレクリエーションを織り交ぜながら気軽に参加できるカフェを企画した。また、買い物支援センターで取り扱うエフコープの商品を実際に試食してもらうことで、便利だが高齢者に馴染みのない商品の購入に繋がった。送迎を行うことで、交通手段がない方も参加できるようにした。

## 事業の成果・今後の展開

引き続き買い物支援を行うことで、村民がより暮らしやすい環境をつくることができた。また、「よりあい喫茶「わ」」には延べ127人の参加（R4年1月末時点）があり、そこで新たな交流も生まれ、見守り活動にも繋がるなど、地域の福祉力の向上に寄与した。今後は、賃金の発生するような軽作業を行う場（働くデイサービス）としての活用も検討する。

### 協議体 とうほう百貨店

所 在：東峰村大字小石原鼓3492-2

〈構成団体と役割〉

- ◆東峰村元気プロジェクト  
事業の企画・運営、高齢者へのニーズ調査
- ◆有限会社つづみの里  
買い物支援・ふれあいカフェ拠点、入荷体制の整備
- ◆社会福祉法人東峰村社会福祉協議会  
ニーズ調査支援、みまもり活動との連携

- ◆エフコープ生活協同組合  
事例の情報提供、商品入荷支援

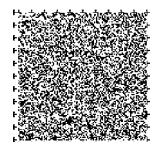
**主な経費** 人件費、会場使用料、消耗品費など

〈問い合わせ先〉

- ◆有限会社つづみの里

住 所 朝倉郡東峰村大字小石原鼓3492-2

電 話 0946-74-2288 F A X 0946-74-2288



## お問い合わせ・アクセス

**住 所:** 〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町13番50号 福岡県吉塚合同庁舎5F

**連絡先:** ☎ 092-631-4411 📠 092-631-4413

✉ nvc@pref.fukuoka.lg.jp

**開館時間:** 月曜日～木曜日 9時～18時 / 金曜日 9時～20時

第2・第4日曜日 9時～17時(第2・第4日曜日が祝日に当たるときは開館)

**休館日:** 土曜日 / 第1・第3・第5日曜日 / 祝日 / 年末年始(12月29日～1月3日)

**アクセス:** JR「吉塚」駅より徒歩約3分 / 西鉄バス「吉塚駅前」バス停より徒歩約3分

福岡市営地下鉄「馬出九大病院前」より徒歩約10分

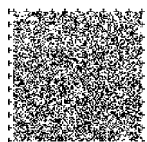
■福岡県共助社会づくり基金 <https://www.kifu.pref.fukuoka.lg.jp/>

■福岡県NPO・ボランティアセンター <https://www.nvc.pref.fukuoka.lg.jp/>



福岡県NPO・ボランティアセンター  
(人づくり・県民生活部社会活動推進課)

福岡県



※この冊子はイオン九州株式会社、株式会社ダイエー、トヨタL & F福岡株式会社、大坪GSI株式会社、西部ガスホールディングス株式会社から福岡県共助社会づくり基金への寄附金を活用して作成しています。

| 福岡県行政資料    |                  |
|------------|------------------|
| 分類記号<br>JA | 行政コード<br>5200116 |
| 登録年度<br>03 | 登録番号<br>0001     |